

令和5年度鹿児島県PTA活動研究委嘱公開  
喜界町大会

学校・家庭・地域の連携・協働を生かした  
PTA活動の推進

～子どもと大人が共に学び合い高め合う姿を目指して～

喜界町立喜界中学校  
PTA会長 實 浩希

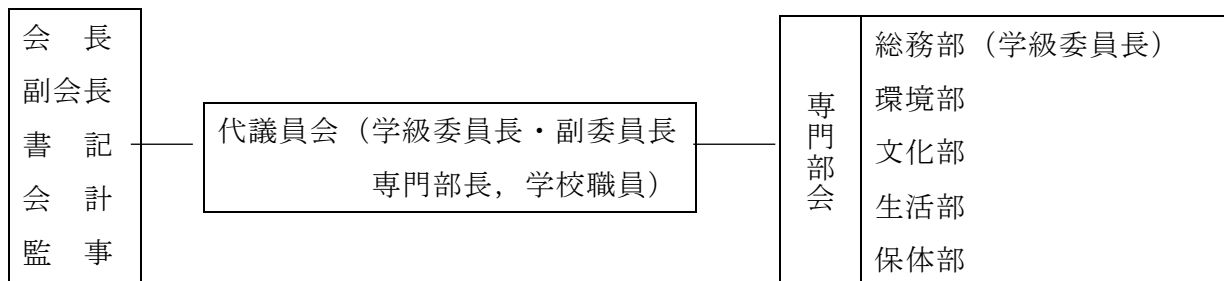
- 1 期日 令和5年11月25日(土)
- 2 会場 喜界中学校体育館
- 3 日程
  - (1) 受付 12:15～12:45
  - (2) アトラクション 12:45～12:55
  - (3) 開会行事 13:00～13:25
  - (4) 研究協議
    - ア 実践発表
    - イ 質疑応答
  - (5) 講評・指導助言 14:00～14:20
  - (6) 講演 14:40～15:40
  - (7) 閉会行事 15:45～16:00

## 1 本校PTAの概要

### (1) 校区について

本校は2小学校区（喜界小・早町小）37集落からなり、生徒数は165人で、学級数は特別支援学級2学級を含む計8学級である。平成24年度の学校再編により、島内9小学校、3中学校から、2小学校、1中学校になり、学校規模の適正化が図られ、12年目を迎えた。

### (2) PTA組織について



### (3) 年間活動計画について

専門部	主な活動内容等
総務部	○ 学年・学級PTA活動の計画的な推進，学年主任・担任との連携 ○ 教職員歓迎会，送別会の企画・運営（令和2年度は中止） ○ PTA代議員会・専門部会の企画・運営
環境部	○ 奉仕作業（体育大会前：8月，卒業式前：2月）企画・運営 ○ 家庭教育学級の運営，各種研修会への参加の呼びかけ
文化部	○ 年3回（7月，11月，3月）（予定）のPTA新聞の発行 ○ 研修会への参加
生活部	○ 年3回（4月，9月，1月）の登校指導の実施 ○ 愛のパトロールの実施（夏祭り，夏休み，冬休み等）
保体部	○ 体育大会への協力（9月） ○ ロードレース大会への協力（12月） ○ 学校保健委員会への参加

## 2 本校PTA活動の研究主題について

### (1) 研究主題

学校・家庭・地域の連携・協働を生かしたPTA活動の推進  
 ～子どもと大人が共に学び合い高め合う姿を目指して～

### (2) 研究主題設定の理由

本校の教育課題のひとつとしてあげられるのは「学力向上」である。基礎的・基本的な知識及び技能の習得は課題である。そのような状況のなか，本地区は令和4・5年度県PTA活動委嘱研究の指定を受けた。そこで，県の家庭学習60・90運動「学びの習慣化5箇条」をPTA専門部会で本校の実態に合った取組に見直し，子どもと大人が共に学び合い，学力向上を目指すとともに将来に通じる人間形成に役立てられればと考え，本主題を設定した。

保護者の皆さんへ

**家庭学習をしなければ学力は身に付きません  
～家庭学習60・90運動～**

・家庭学習をしなければ学校で学んだことを忘れてしまうばかりか、学校の授業にもついていけなくなってしまいます。

**学びの習慣化5箇条**

- 「早寝早起き朝ごはん」の実行
- 家庭で毎日決まった時間の学習
- テレビ・ゲーム・ケータイ等のルールの徹底
- 家庭での読書の時間の増大
- 親子で語る時間の設定

\* 全国学力・学習状況調査において、上記のことが守られていると回答した児童生徒は、正答率が高くなっています。

**児童生徒の実態は…**

国際的には48か国中 宿題をする時間はほぼ最短  
テレビ・ビデオの視聴時間は最長

■ 宿題をする1日当たり平均時間 (TIMSS 2007 国際数学・理科教育動向調査(対象中学校2年))  
■ テレビ・ビデオを見る1日当たりの平均時間

◇ 本県小学6年生の家庭学習時間別の正答率  
(平成21年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙より)

◇ 本県中学3年生のテレビの視聴時間による正答率  
(平成21年度全国学力・学習状況調査より)

(3) 活動方針 (活動の重点・活動の努力点等)

専門部	活動内容	具体策 (専門部で分担を明確に)		
		いつ	だれが	どのように
総務部	(1) 一家庭一家訓 (2) 「取りかかろうの3分」の保護者の声かけ	学年PTAで提案	各家庭	(1) 学びの習慣化5箇条を家庭に表示して家訓を立てやすくする。 (2) 表にして家族の目につく場所に張り出す。 <まとめ> (1) (2)の集計はアンケートを実施してデータとする。
環境部	一家庭一家事 親子で手伝い・家事の内容の回数を決め、継続した取組をめざす	週に数回 (頻度・回数は親子で話し合って決める)	子どもが	(1) 夏休みのしおりに記入欄を設ける。 (2) 夏休み以外はキャリアパスポートの週末反省時に同時に記入する。
文化部	【家庭で選択】 A: 家族で「新聞記事速読競争」 B: 生徒一人で「新聞記事音読」 C: 生徒一人で「詩の音読」	毎月1回 ※3年生は受験のため、2学期まで	各家庭	(1) 取組に関するアンケートの実施 (2) 実施後、家庭で記録表への記入。 (3) 記録表の集計。 (4) ファイルを用意し記事と記録表を綴じる。
生活部	【テレビ・ゲーム・ケータイ等のルールの徹底】 (1) アンケートの実施 (2) 情報モラル講話の実施	(1) 長期休業後 (2) 夏休み前	(1) 各家庭 (2) 生活指導部	(1) R4年度1, 2年生保護者アンケートをとり、R5年度では2, 3年生にアンケートをとり変容をみる。 (2) 保護者対象の情報モラル講話の実施。
保体部	(1) 一家庭一運動 (2) 虫歯に関するアンケート	(1) 夏休み (2) 1学期中	(1) 親子で (2) 各クラスの部長	(1) なわとび, Tiktokなど (2) 治療を促すねらいを踏まえる

3 活動の実際

(1) 総務部「一家庭一家訓」及び「とりかかろうの3分」の声かけの取組

家庭において、一つの目標を掲げ、日々の生活の中で、それを意識して行動することを目指す。

① 一家庭一家訓

ア 取組の実際

各家庭で話し合い壁に掲示するなどして、目標設定に生かした。

イ 成果と課題

- 取り組んだ家庭では「子供が家訓を意識して行動するようになった」「家族で協力して取り組めた」「会話のきっかけになった」など、ポジティブな意見が多かった。

▲ 44%の家庭で実施できなかった。呼びかけや周知の仕方等に課題が残った。



一家庭一家訓

② 家庭学習「取りかかろう3分」の声かけ

ア 取組の実際

家庭学習の際に迅速な取りかかりを促す。声かけの頻度については家庭の状況で決める。

イ 成果と課題

- 55%以上の家庭で取りくめた。取り組んで良かった。家族間における会話のきっかけ作りになり、子供たちが主体的に行動する良い機会となったという感想が多かった。
- 「意識的に学習に取り組み、時には自ら取り掛かることもできるようになってきた」「今までは時間にルーズだったが、『何時には始めよう！』と声掛けすることでメリハリがつき計画的に学習出来るようになった」といった意見が複数あった。

▲ 声掛けは行ったが、子どもの学習への取組に変化なしという家庭も多かった。

(2) 環境部「一家庭一家事」の取組

家庭でのお手伝いを通して、家族のふれあいを増やし、達成感を味わうなどの経験を得ることで子どもの自信・意欲を高めていくことを目指す。

ア 取組の実際

○ 家事やお手伝いに関するアンケートの実施

a 取組状況（3回実施）

令和4年 3学期	令和5年 1学期前半	令和5年 1学期後半
○ (行った) 65.9%	○ (行った) 73.2%	○ (行った) 78.7%
× (行わなかった) 34.1%	× (行わなかった) 26.8%	× (行わなかった) 21.3%

b 家事の手伝いについて (R5.7))

・決めて行っている 30.5%    ・ときどき手伝う 64.5%    ・ほとんど手伝わない 5.0%

c お手伝いをして良かったと感じたことはありますか。(R5.7)

・ある 71.6%    ・ない 28.4%

### 生徒の感想「手伝いをして良かったと感じた場面」

- ・ お礼を言われたとき、感謝されたとき
- ・ 終わった後に達成感を感じる
- ・ ご褒美をもらったとき
- ・ 人の役に立てたと感じたとき
- ・ 家族の時間が増える
- ・ 褒められたとき
- ・ 家がきれいになったとき
- ・ 作れる料理の種類が増えた

### 生徒の感想「お手伝いの良さを感じた場面」

- ・ 親の負担が減る
- ・ 将来、一人暮らしをするときに役立つ
- ・ 気持ちがすっきりする
- ・ 快適に暮らせる
- ・ 家族とのコミュニケーションが増えた
- ・ 家族の大変さを知り、感謝の気持ちを持てる
- ・ 人を笑顔にできる

## イ 成果と課題

- P T A 等呼びかけ、定期的な実施状況等の確認等により、お手伝いに関する意識の向上を図ることができた。お手伝いの実施状況も 65.9%から 78.7%へと増えた。
- 家事・手伝いを通して、家族のコミュニケーションが増え、家族の絆を深めることができたと感じている子どもが増えた。
- 今年度の取組を継続・浸透させ、家族のふれあいを増やす取組としていきたい。

## (3) 文化部「家庭で音読（家庭で選択）」の取組

A：家族で「新聞記事速読競争」

B：生徒一人で「新聞記事音読」

C：生徒一人で「詩の音読」

※3年生(令和4年度)は受験の為、2学期のみ実施。

## ア 設定理由

情報端末機器の使用時間が増加する昨今、子どもの活字離れが問題視されている。本校では、家庭で新聞を読む保護者 49%に対して生徒は 9%と低かった(令和3年7月調査)。さらに情報端末機器の使用時間の増加は家庭内での語り合いやふれあいの時間が減少しているのではないかとされている。

そこで、テストの問題文を速く読むことができれば考える時間が増え、学力の向上に繋がるのではないかと考えた。月に一度家族で新聞を読む速さを競い合いながら、子どもの速読力の向上に努めることで、家庭での親子の対話やふれあいの時間が増えることにもつながるのではないかと考えた。

## イ 取組の実際

- ・ 新聞記事および詩の原稿を実施前月までに学校に提出。長文を読むことが難しい生徒や様々な家庭の状況等も考え、短い詩の音読も取り入れる。
- ・ 各クラスの文化部部長がクラス集計。担当が全クラスの集計をまとめ、学校へ提出。

## ウ 成果と課題

実施月	クラス	新聞記事速読		新聞音読	詩	語り合い	取組なし	提出率
		家族	生徒のみ	生徒のみ	生徒のみ			
R4.9	1年	27%	35%	35%	53%	31%	12%	74%
R4.12	1年	33%	30%	19%	15%	33%	8%	59%
R4.3	1年	25%	30%	55%	35%	35%	25%	43%
R5.7	2年	21%	38%	13%	38%	29%	42%	52%
R4.9	2年	18%	45%	18%	55%	27%	18%	48%
R4.12	2年	31%	38%	23%	74%	31%	5%	66%
R4.3	2年	23%	45%	20%	65%	20%	5%	68%
R5.7	3年	17%	40%	11%	49%	32%	34%	81%

- ・ 提出率が全体を通して低いですが、声掛けをすることで上がった。
- ・ 一つの活動だけでなく、複数の活動に取り組んだ家庭も多数あった。
- ・ 速読競争に取り組んだ家庭は、親子での語り合いにも繋がった。
- ・ 提出した家庭のほとんどが、活動に取り組んでいた。子どもが活字に触れる機会を与えることが、活字離れを無くすことに繋がっていくのではないかと、と思われる。
- ・ 子どもが興味をもつ記事や詩人に触れながら、活字に触れる機会をつくっていくことが 大切だと思われる。

#### (4) 生活部「テレビ・ゲーム・ケータイ等のルールの徹底」の取組

##### ア 取組計画

- R 4. 9月 こどもの夏休みにおける情報端末機器に関するアンケート（1,2年保護者）
- R 4. 10月 ネットリスク講話（中学生・保護者全員）
- R 5. 1月 こどもの冬休みにおける情報端末機器に関するアンケート（1,2年保護者）
- R 5. 7月 ネットリスク講話（中学生・保護者）
- R 5. 8月 こどもの夏休みにおける情報端末機器に関するアンケート（2,3年保護者）

##### イ 取組の実際

###### ○ 講話「健康被害とメディアの危険な関係」ネットリスク教育研究会 戸高 成人先生

- ・ スマホの時間に私は何を失うか？ → 体力，視力，コミュニケーション能力
- ・ 行動嗜癖を知って，自分の行動を見直そう。 → 思考力を奪う，デジタルデメンチア（認知症障害）
- ・ 最近の子どもたちにある特徴が見られる。 → スマホ・LINE・ゲームの長時間使用による学力低下の深刻な事実。
- ・ 睡眠障害生徒の脳内血流。
- ・ 液晶ディスプレイ等によるブルーライトが網膜に与える影響。
- ・ 日没後のメディア機器の使用による脳の機能障害。
- ・ ネットの没頭しすぎると。 → 前頭前野の発達遅れや精神機能の低下。

###### ○ 生徒の感想

- ・ 長時間使ってしまうと視力の低下や，睡眠不足，生活のリズムの乱れ，集中力，判断力の低下などでさまざまな影響を及ぼすことを知りました。生活のリズムの確認をし，ルールを作るなどの対応をしようと思います。（中1女子）
- ・ 家族とスマホのルールを決めて，自分が犯罪者にならないようにSNSの使い方も話し合おうと思いました。今日から頑張りたいと思います。（中2女子）
- ・ 私は，スマホを手に入れてから「記憶力が落ちたな」って思うことがたくさんあります。私は，今日話を聞いて，インターネットを使用する時間を考えて使用しようと思います。親にもこの話をしてみようと思います。（中2男子）

###### ○ 保護者の感想

- ・ 視力や一見問題に見える行動の背景とメディアの関係について詳しく知ることができた。子どもたちだけでなく，大人もメディアの使いすぎによる健康被害についても考えさせられた。紹介された数々の研究やデータに裏付けられていることがよく分かりました。
- ・ 「スマホに子守はできて子育てはできない。」メディアを上手に活用しつつ，子どもの言葉や行動の背景にしっかり寄り添える大人でありたいと思います。



ネットリスク講演会

○ アンケート結果の推移

a 子どもが夏・冬休みに情報端末機器を主にする時間はいつ頃ですか。

使用している時間帯	R4. 9	R5. 1	R5. 8
ア. 午前中	1.8%	6.4%	5.7%
イ. 午後から夕方まで	7.0%	19.1%	18.9%
ウ. 20:00まで	21.1%	10.6%	15.1%
エ. 22:00まで	22.8%	46.8%	37.7%
オ. 24:00まで	35.1%	14.9%	18.9%
カ. 2:00まで	12.3%	2.1%	3.8%

b テレビ・ゲーム・ケータイ等のルールがありますか。

	R4. 9	R5. 1	R5. 8
ア. はい。(ルールがある)	59.6%	66.0%	64.2%
イ. いいえ。(ルールはない)	40.4%	34.0%	35.5%

ウ 成果と課題

昨年より、「ネットリスク講話」を全校生徒及び保護者を対象に行ってきた。また、生徒や保護者を対象とした「情報端末機器に関するアンケート」も数回実施し、その結果をもとにPTA生活部中心に学級・学年のPTAや喜界町校外生活指導連絡会などで話し合ってきた。R4講演会への保護者の出席率は12%であったが、R5は30%以上に増えたことから意識が高まってきていることが伺える。

来年度以降も継続した取り組みを行い、「ネットモラル」に加えて、「ネットリスク（健康被害）」の観点から、親子で「情報端末機器の使用」について考えていきたい。

(5) 保体部「一家庭一運動」及び「虫歯治療率向上」の取組

- ・ 親子のふれあいを大切に、子どもと大人が共に体力向上を目指す。(一家庭一運動)
- ・ むし歯の予防や治療への意識を、子どもと大人が共に高め合い、生涯を通して歯と口の健康づくりを目指す。(治療率向上への取組)

① 一家庭一運動

ア 取組の実際

令和4年度7・8月、12・1月、令和5年度7月の計3回、全家庭対象に一家庭一運動を実施した。内容と回数は各家庭で決定した。



家族でのランニング

【取り組んだ家庭の一例と取り組んだ感想】

生徒の感想	朝早くジョギングを家族として、とても気持ちよくすることができて一緒に話したりすることがとても楽しかった。
保護者の感想	子供からの提案で、朝早く起き親子でジョギングしました。たくさん話もできてとても言い時間をすごすことができました。今後も続けていけたらいいなあと思います。

イ 成果と課題

- 運動を通して、親子のふれあいの時間が増え、各家庭がコミュニケーションを深めることができた。
- 親子で体力向上を目指すことができた。継続して続けることで、出来なかった運動が出来るようになるなど変容がみられた家庭もあった。
- ▲ 一家庭一運動を今後も続けていきたいという感想が多かった。継続が難しい家庭もあるようだった。今後も、長期休業中などで取り組んでいく必要性を感じた。

## ② むし歯の予防と治療への意識向上に向けた取組

### ア 取組の実際

#### a アンケートによる意識調査（保護者対象）

- ・ 毎食後の歯磨きの習慣 → 身につけている：83%
- ・ 積極的な歯科検診への取組 → はい：49% いいえ：51%

#### b 全生徒対象にした養護教諭による「生徒自身への意識向上を図るための歯垢染め出し剤を使用したブラッシング指導」の実施

#### c 学校歯科医による講話（学校保健委員会の活用）



養護教諭による  
ブラッシング指導

### イ 成果と課題

- 若干ではあるが、令和3年度と比較して令和4年度のむし歯治療率の向上がみられた。（令和3年度 35.4%→令和4年度 36.7%）
- 令和5年度の学校保健委員会後のアンケート結果から、歯科医院を受診させたいと思う保護者の方が多かった。また、ブラッシング指導で、生徒が歯みがきの仕方について見直し、丁寧にみがこうという意識が向上した。
- むし歯ゼロ賞が生徒の自信につながり、今後も予防していこうという意識向上につながった。また、まだ治療に行けていない生徒の意識改革につながった。
- ▲ 治療率はまだ30%台である。さらなる取り組みの継続が必要である。家庭のスケジュール調整や様々な理由で治療率の向上がみられないため治療に向かう環境づくりが必要である。

## 4 活動の成果と課題

### (1) 活動の成果

- ・ 家庭での過ごし方や将来を見つめる機会になるとともに、自立（自律）を目指す取組ができた。
- ・ 子どもが思春期に入り、親子のコミュニケーションに戸惑っていた家庭が多かったが、家事家訓・運動を通じた取組によって家族の会話やコミュニケーションの機会が増えてよかった。
- ・ 家事（お手伝い）の実施状況が78.7%と高く成果もあり、家族の絆も深まった。
- ・ 速読競争に取り組んだ家庭では、親子での語り合いに繋がった。

### (2) 活動の課題

- ・ 取組内容が多かったため、各専門部の取組が定着しなかったと思われる。また、家庭によって取組に差を感じた。みんなで取り組める内容に絞る必要があったのかもしれない。
- ・ 共働き家庭も多くなった昨今、PTA活動の精選を検討していきたい。